



日本プライマリ・ケア連合学会
東北ブロック支部



<http://www.primary-care.or.jp/primarycare-tohoku/index.html>



発行人
支部長：菅家 智史

【ブロック支部からのお知らせ】

■ブロック支部事務局メールアドレス変更のお知らせ

2024年8月より事務局を福島県立医科大学としておりますが、このたび連絡メールアドレスが変更となりますのでお知らせいたします。

〒960-1295 福島県福島市光が丘1 福島県立医科大学医学部総合内科・総合診療学講座内
Tel 024-547-1516 Fax 024-547-1210 Mail gim-fm@fmu.ac.jp

■第14回日本プライマリ・ケア連合学会東北ブロック支部学術集会

会長 石井 正（東北大学病院総合地域医療教育支援部 教授）
学会テーマ 総合診療と心のケア
日時 2024年9月14日（土）・15日（日）
会場 宮城県医師会館（宮城県仙台市青葉区大手町1-5）
主催 日本プライマリ・ケア連合学会東北ブロック支部（宮城県支部会）
共催 東北大学病院 東北大学地域総合診療医育成寄附講座

2024年9月14日（土）、9月15日（日）「総合診療と心のケア」をテーマに宮城県医師会館（仙台市）において東北ブロック支部学術集会を現地開催（一部オンデマンド配信）いたしました。当日は211名と多くの皆様のご参加を頂きました。今回は、新たな試みとして総合診療医、専攻医による参加型ワークショップや多職種セッションを開催し、大変活発な意見交換が行われました。プライマリ・ケアと総合診療の研鑽に大いに役立つものであったと感じております。

<1日目:9月14日土曜>

開会式では、大会委員長の石井正先生から開会宣言があり、東北ブロック支部長の菅家智史先生（福島県立医科大学医学部総合内科・総合診療学講座）からご挨拶がありました。第1会場では基調講演の『日本社会に広がるプライマリ・ケア』（日本プライマリ・ケア連合学会理事長 草場鉄舟先生）、特別講演の『第8次地域医療計画におけるメンタルヘルス対策の課題』（東北大学精神科教授 冨田博秋先生）と『摂食障害のこころー患者・家族

・そして治療者たち』(いしかわストレスクリニック院長 石川俊男先生)にご講演いただきました。

シンポジウムは『総合診療と心の問題』をテーマに『不眠症診療の最前線』(東北福祉大学総合福祉学部教授 上埜高志先生)、『漢方と心のケア』(東北大学病院 大澤稔先生)、『発達支援の現場から～長時間のデジタルメディア視聴が子どもにもたらすもの～』(東北大学病院小児科 植松有里佳先生)、『総合診療外来患者のうつ状態 (SDS 調査から)』(東北大学病院 阿部倫明)の4名からの診療経験に基づいたレクチャーがあり、活発な総合討論を行われました。

第2会場の一般演題1・2では興味深い発表内容に熱気ある質疑応答がありました。その後、会場を移し情報交換会を開催いたしました。医師、薬剤師、看護師、鍼灸師、学生と総勢82名の参加をいただき職種を超えた交流の場となりました。



<2日目, 9月15日日曜>

ワークショップ1の【総合診療分野のキャリアデザイン】『「総合診療」への期待と不安～とことん語り合いましょう』は、東北6県からの中堅総合診療医にそれぞれの診療経験談を語ってもらい、様々なテーマについてスマホアプリを駆使して活発な討論会を行いました。ワークショップ2【オンライン診療】『オンライン診療は東北のプライマリ・ケアに使えるか?』では、『オンライン診療を地域医療にどう活かすか』(こどもとおとなのクリニック パウルーム院長 黒木晴郎先生)、『在宅診療における医療用SNSの使用経験』(東北医薬大学若林病院 住友和弘先生)、『在宅医療におけるD to P with N～診療看護師とのオンライン診療～』(石巻市立病院 末永拓郎先生)、『癌終末期を支援するオンライン診療』(宮城県赤十字血液センター 鈴木聡先生)から経験に基づいたレクチャーがありました。興味深いテーマに参加者から活発な質疑応答があり、大変有意義な総合討論となりました。

第2会場の一般演題3・4では多職種からの演題発表があり熱心な質疑応答がありました。続いての多職種セッション【(I)一緒に(P)プライマリ・ケアを(W)輪になって学ぼう!】では、症例検討を通じてIPWを実践するための方略をグループワークで考えました。学生会セッションでは、学生が主体的に自分の興味ある事についてレクチャーし、活発に討論を行いました。

市民公開講座【総合診療と漢方】『心身へのアプローチ』では『総合診療と漢方』（東北大学病院 高山真先生）、『女性のメンタルと漢方』（東北大学病院 大澤稔先生）、『困った心身症状に漢方』（東北大学病院 有田龍太郎先生）にご講演いただきました。

閉会式は、本大会委員長の石井正先生から来年度の第15回東北ブロック支部学術集会（青森開催）会長の米田博輝先生（弘前大学医学部附属病院総合診療部教授）に引き継ぎがあり、その後、東北ブロック副支部長の長野正裕先生（長野内科胃腸科院長）から閉会宣言がされ盛会のうちに終了となりました。



いずれのセッションも総合診療の実践に即した内容であり、発展性のある内容でした。多くの学生の参加もあり、総合診療への興味と期待を実感できる学術集会となりました。ご参加の皆様には明日からの医療に活用してもらえないのではないかと思います。お忙しい中、ご登壇いただきました日本プライマリ・ケア連合学会理事長 草場鉄舟先生をはじめ演者、座長の皆様、ご参加の皆様にご心より御礼申し上げます。来年、青森でお会いできますことを楽しみにしております。

第14回東北ブロック支部学術集会実行委員 阿部倫明

【寄稿】

第14回 日本プライマリ・ケア連合学会東北ブロック支部学術集会

多職種セッション報告「(I) 一緒に (P) プライマリ・ケアを (W) 輪になって学ぼう！」

日時：2024年9月15日（日）11:00~12:20

会場：宮城県医師会館 大会議室（5階）

東北ブロック支部地方会において、多職種セッションとして多職種協働（IPW）のワークショップを行いましたのでご報告いたします。

企画・運営はTPCA-Pのメンバーを中心に、看護師や鍼灸師の方にも参加していただき、運営そ



のものが IPW の実践例となる形で進められました。IPW の重要性は頭で理解していても、実際に自分の職場や地域で実践することが難しいと感じる方が多いのではないのでしょうか。そのような現状を踏まえ、今回のワークショップでは、症例検討や論文抄読を通じて IPW の価値を再認識し、次のステップとして、自分の職場や地域で IPW を実践するための具体策を考える機会を提供しました。

当日は医師、薬剤師、看護師、鍼灸師、事務職、学生など 30 名が参加しました。

症例検討では「インスリン治療内容の変更と家族支援に関する介入」を題材に、また論文抄読では「自身の地域の連携状況を地域連携の評価尺度を用いて評価する」をテーマに、グループごとにディスカッションを行いました。セッションのまとめとして、参加者一人ひとりが「明日から地域連携や多職種連携のために何ができるか」を宣言し、グループメンバーから励ましや助言を受けました。



ディスカッションは非常に盛り上がり、セッション終了後にはほぼ初対面のメンバー同士が記念写真を撮る場面も見られました。また、終了後のアンケートでは、「実習で多職種の仕事内容や考えを学びたい」といった医学生の感想をはじめ、IPW への意欲的な意見が寄せられました。

本セッションの実施にあたりご協力・ご参加いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。この取り組みが各地域での IPW の向上や、地域医療の発展につながることを願っています。

東北ブロック支部薬剤師部会 (TPCA-P) 遠藤 東吾 (株)大東本店薬局)

■第 15 回日本プライマリ・ケア連合学会東北ブロック支部学術集会

2025 年 9 月 13 日 (土) と 14 日 (日)、青森市のアピオあおもりにて開催される「第 15 回日本プライマリ・ケア連合学会東北ブロック支部学術集会」に、ぜひご参加ください。青森の美しい秋を背景に、プライマリ・ケアの未来を語り合いませんか？多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

テーマは「選ばれるプライマリ・ケア」

患者にとってなくてはならない存在となるプライマリ・ケアを目指して、今回の学術集会ではこのテーマを軸に、地域での知見や事例を共有し、活発な議論を展開します。一緒に学び、交流することで、患者や若手医療者、多職種に選ばれるプライマリ・ケアの未来を築いていきましょう。

青森の秋を満喫

学会会場のアピオあおもりは、青森駅からタクシーや車で 10 分、新青森駅からは 20 分。学会の合間には、世界遺産の縄文遺跡群や、美しい津軽海峡を一望できる観光スポットを訪れたり、新鮮な海の幸を堪能したりと、青森の魅力を満喫できます。

大会長 花田 裕之（弘前大学大学院医学研究科 救急災害・総合診療医学講座 教授）

日時 2025 年 9 月 13 日（土）14 日（日）

会場 アピオあおもり（青森市）

【県支部活動】

■秋田県支部

○JPCA 秋田県支部総会 2024 開催のご報告

2024 年 11 月 2 日（土）、「秋田発 次世代プライマリ・ケア人材の育成戦略」というテーマを掲げ日本プライマリ・ケア連合学会秋田県支部総会 2024 を開催し、20 名の参加がありました。プレ企画として午前中に学生を対象とした腹部エコーセミナーを行い、本会にも学生さん 4 名が参加してくれました。



特別講師には獨協医科大学総合診療医学主任教授の志水太郎先生をお招きし、専攻医の

教育体制やリクルートについてオンラインでご講演いただきました。スタッフの教育への熱意を感じるとともに、「しんどいことは続かない」というお言葉が印象的でした。参考にしたい点が多々あり、少しずつ取り入れながら当研修プログラムをより魅力的なものにしていきたいと思います。

また、専攻医、看護師、薬剤師から活動報告をいただきました。多職種の活躍を知る貴重な機会となりました。

【活動報告（敬称略）】

- ・松本奈津美（秋田大学家庭医療専門医育成プログラム専攻医）：「在宅研修中間報告@岡山家庭医療センター」
- ・佐藤奈々絵（大館市立総合病院看護部）：「学会認定プライマリ・ケア看護師資格取得までの経緯 ～ケースレポートの内容紹介とともに～」
- ・齋藤正子（大館市立総合病院薬剤科）：「プライマリ・ケア認定薬剤師を目指して」

